

会計専門職研究科 対談

研究科長 吉村 孝司 × 修了生 駿河 佳奈



吉村 専門職大学院で会計を勉強しようとした動機、またその中でなぜ明治大学を選ばれたのか、お話を聞かせてください。

駿河 明治大学商学部出身で公認会計士をしている父から、「予備校で得られる知識だけではなく、プラスアルファの知識を学べる経験をした方が仕事の役に立つ」とい

う話を聞いたことがきっかけです。私が通っていた大学には専門職大学院がなかったこと、また大学のゼミの先生から「明治には自分がお世話になった先生や、他にも経験が豊富で素晴らしい先生がいっぱいいる」という話を聞いて、明治大学を志望しました。説明会に参加した時も、先生方や学生の

皆さんの雰囲気良かったという理由のひとつです。

吉村 会計専門職研究科では、駿河さんのように大学を卒業して入学する、いわゆるストレートマスターが多いのですが、最近では現職の公認会計士や税理士の方も通っています。自分が資格取得のために勉強をしていた頃と環境や業務が変わり、最先端の知識やノウハウを求めて入学される方が増えています。

駿河 私の一学年下にも現職の公認会計士の方が入学されましたが、学生では経験したことがない実務の話聞くことができたので、とても勉強になりました。

吉村 会計専門職研究科が養成を目的としている公認会計士や税理士のプロフェッショナルは、自分で考えて意思決定をしなければいけない孤高の存在です。しかし、そのための知識や知恵だけがあればいいのではなく、人間性や倫理観を養う必要があると考えています。

先日、とある学生から、「試験に合格さえすればいいのですよね」という質問を受けました。もちろん

入学してもらったからには合格してほしいと思いますが、私たちが求めているのはそれだけではありません。倫理、道徳、社会性も学んで、プロフェッショナルとしてのマインドを持つてほしいのです。

駿河 公認会計士や税理士を目指す方の中には、とにかく試験に受かって、会社に入社すればいいと考えている方がいると思います。しかし、試験に受かった後、働いてどう社会に貢献できるかが大切です。一緒に働く人、「この人すごいな」と思われるよう

な何かを専門職大学院で見つけてほしいです。

また、財務諸表や貸借対照表に出てきた数字を見た時、それが会社の何を示しているのか、それぞれがどうつながっているのかということは、試験勉強だけではわからないと思います。実際に仕事をする上でも、数字の背景を理解できて

いないとクライアントの会社のことを理解できません。専門職大学院では、先生方の豊富な経験から語ってくださる話を聞き、そういう深い知識を得ることができました。

その上で明治大学は、先生とのつながりや、先輩、後輩、修了生同士のつながりが強いので、他の学校にはないアットホームな雰囲気です。学ぶことができるのが魅力です。

吉村 実際に公認会計士になるという夢が叶いましたが、会計のプロフェッショナルとしての難しさや厳しさを感じることはありませんか？

駿河 試験に合格した時はとてもうれしかったです。それで終わりははないという専門職ならではの

のつらさがわかってきた気がしますが、日々働く中で、まだ至らない点があると感じます。知識をアップデートして専門的に考えられるように、また、プロフェッショナルとしての意識や自信をつけるために、今後も努力をして成長し続けたいと思っています。

吉村 明治大学には教員と学生、先輩と後輩、同期の仲間など、いろいろな形で気付きの機会があります。今後も、学生がさまざまな気付きを得て、自信を持つことができれば、大学でありたいと思っています。本日はありがとうございました。

PROFILE

駿河 佳奈
Kana Suruga

2019年、会計専門職研究科会計専門職専攻修了。在学中の2018年に公認会計士試験に合格。現在は有限責任あずさ監査法人第4事業部でグローバル分野の監査を担当。